

平成 30 年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課				
①	1. 可能な限り振替を行い、補欠授業とならないよう、授業時数を確保する。振替が困難な場合は、該当授業科目の課題を準備し自習とならないようにする。	成果指標 (補欠授業割合) A : 1.0%以内 B : 2.0%以内 C : 3.0%以内 D : 3.1%以上	A	大きなトラブルもなく、補欠授業の割合を 1%以内に収めることができた。来年度も引き続き目標達成を目指し、可能な限り補欠授業が発生しないようにしたい。
②	2. 成績通知表の記載ミスがなくす。間違いの起こりにくいシステムの整備や点検・見直しを行い、成績通知表の再発行の件数 0 を目指す。	成果指標 (通知表再発行件数) A : 0 件 B : 5 件 C : 10 件 D : 11 件以上	B	教科担当の教科伝票の入力ミスによる再発行があった。教科担当、ホーム担任に確実な確認を徹底したい。
進路指導課				
①	1. 生徒、保護者の進路希望を把握し、正確な進学情報を共有できる環境を整える。説明会等に積極的に参加し、各学年・コースに応じた最新の進学・入試情報を得て、教職員と共有できるようにする。	満足度指標 A : 70%以上 B : 65%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	B	学校評価アンケート「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者に対しても十分に提供されている」の集計結果より、「当てはまる」および「どちらかと言えば当てはまる」が全校平均で 66%であった。校内 Web 連絡システムを活用し、教職員に正確な進路情報を迅速に伝えていきたい。
②	2. 生徒、保護者の進路希望が実現するように努力する。難関国立大学、難関私立大学、医学部医学科、地元国公立大学の合格者数を増やす。	成果指標 A : 3 項目以上が増加 B : 2 項目が増加 C : 1 項目が増加 D : 4 項目が減少	B	難関国立 10 大学 7→5 名、難関私立 13 大学 118→130 名、医学部医学科 2→6 名、地元国公立大学 90→68 名である。難関大学合格に必要な学力、意欲、プロセスを具体的に示し、意識合わせをした上で、早期に対策を講じていきたい。
③	3. 生徒、保護者の進路希望で最も多い国公立大学の合格者数が増えるように努力する。現役での国公立大学合格者 150 名以上を目標とする。	成果指標 A : 150 名以上 B : 100 名以上 C : 50 名以上 D : 50 名未満	C	現役生の国公立大学合格者数は 95 名であった。センター試験で高得点を取るための指導に加えて、早期に記述力の向上が見込める仕組みづくりをしていきたい。後期日程まで受験するよう最後まで諦めないためのサポートを継続する。
生徒指導課				
①	1. あいさつ運動を更に推進することにより、生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	成果指標 A : できた (80%以上) B : 概ねできた (70%以上) C : やや不十分だった (60%以上) D : 不十分だった (60%未満)	B	アンケート結果による自己評価とは別に、自発的に挨拶が難しい現状もあり、学校全体として、さらにあいさつ運動を進めて行くことが必要。
②	2. 生徒の通学マナーを更に向上させながら、地域の方々からより信頼を得られるように指導していく。	成果指標 A : できた (80%以上) B : 概ねできた (70%以上) C : やや不十分だった (60%以上) D : 不十分だった (60%未満)	B	アンケート結果ではよい結果ではあるが、自転車や公共交通機関でのマナーに関する苦情の連絡がたびたびあった。地域の方からの信頼を得られるよう、指導が必要。

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務課				
①	学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学式 ＊PTA 総会 ＊保護者懇談会 ＊入試説明会 ＊推薦入試・一次入試 ＊推薦・専願合格者説明会 ＊卒業式 ＊入学説明会	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	各行事の準備を早めに取り掛かり、概ね良好に実施できた。準備と撤収に人員の要する事例については、多くの職員の協力が得られ円滑に実施できた。
特活課				
①	1. 生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。また、応援に関わる委員会を新設し、全校応援等でまとまりのある応援ができるように活動していきたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	今年度は応援委員を新設することができた。応援委員が人文字用のボードを作成し、野球応援時に県立野球場でも甲子園でも人文字による応援を実施することができた。
②	2. 星稜祭食品テナントにおいて各クラスが衛生管理をしっかりと行うように指導し、食中毒予防に努める。職員および各クラス保健委員・文化委員に講習会の受講を義務付けることによって意識向上を図りたい。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	星稜祭で食品テナントを行うクラスの担任と代表生徒を対象に、保健所職員による講習会を実施することができた。食中毒予防の意識づけとして大きな効果があった。
③	3. 新入生を対象に部活動のPRを効果的に行うとともに、各部が大会等で結果を出し、より魅力的な部活動となるよう、各部がそれぞれの目標を設定しながら、目標に向かって努力できる環境を整えていきたい。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	B	今年度5月1日時点での部活動加入率は66.9%で、昨年度の66.2%より少し向上したが、目標としていた70%には届かなかった。効果的なPRを行うと同時に、途中退部を減少させる取り組みも必要である。
④	4. 生徒自身が主体的に健康な生活を送れるような実践力を育てる。自己の健康課題について認識させるため、身体計測後の長期休暇前に個別の保健指導を実施し、視力・聴力および歯科検診において昨年度以上の病院受診率を目指す。	成果指標 A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：40%未満	B	検尿・内科検診・胸部X線・心臓検診は昨年度同様受診率は100%。歯科は33%、視力・聴力は47%と、昨年度に比べ全学年ともほぼ横ばいだった。来年度は、保健委員による呼びかけを実施し、今年度以上の受診率向上を目指す。
広報課				
①	今後の県内中学生人口の減少傾向を鑑み、広報戦略の中において、通学圏内である富山県西部へのPR活動を強化し、県内外を問わず「誰からも愛され必要とされる星稜」というイメージを定着させる。 ＊加越能バス運転席後部額面広告制作 ＊高岡万葉線路面電車ラッピング広告制作 ＊富山教育ネットワーク広告制作 ＊福光地区広報活動 ＊TOYAMA 高校フェア参加 ＊ロールアップバナースタンド制作	成果指標 A：5項目以上達成 B：4項目以上達成 C：3項目以下達成 D：取り組みなかった	A	具体的な取り組み目標としていた全項目を達成することができた。加越能バス内広告を、電車通学用など地区別に3種類にアレンジし、富山南部地域の公立中学にポスター掲示することで具体的な福光地区広報活動の一つへとつなげることができたことは大きい。また、TOYAMA 高校フェアの参加者は前年度より少なかったが、制作したロールアップバナースタンドを会場で立てたことで注目を集め、関係内外を含め、評価は好評であった。
《次年度における校務改善に向けて》 次年度で30年間続いた「センター試験」が終了し、戦後最大級の大学入試改革を迎え、「大学入学共通テスト」の実施、高等学校における「新学習指導要領」の実施が始まることとなる。中高接続と高大接続をより意識した、魅力ある教育内容を提供できる学校運営を心掛けていく中で、生徒への生活指導はもちろん、教育事業実施の方法や成果、広報の在り方等は、常に立ち返りながら、高いレベルを保持しなければならない基本事項である。基本原則として大切な事柄が、新しい挑戦の陰にならないよう、各課の取り組みの質をより高めていきたい。				